一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)
第 48 回理事会 議事録

1. 日 時 2022 年 7 月 4 日 (月) 開会 17 時 00 分
閉会 17 時 57 分

2. 場 所 東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号 日比谷国際ビル 314
JANPIA 事務所内 会議室

※JANPIA 事務所内 会議室を起点に、各出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとし、出席者が一堂に会するのと同等の相互に十分な議論を行うことができるという環境を確保したうえで実施 (ZOOM を利用)

3. 出席者

理事長 二宮 雅也 [議長]

なお、二宮雅也理事長は、ZOOM を利用して出席した。

理 事 清水 秀行 岡田 太造 茶野 順子 鵜尾 雅隆

なお、清水理事、岡田理事、茶野理事、鵜尾理事が ZOOM を利用して出席した。

監 事 土岐 敦司 柳澤 義一

なお、土岐監事、柳澤監事は、ZOOM を利用して出席した。

事務局 鈴木 均 (事務局長) 大川 昌晴 (総務部長)

4. 議 案

第 1 号議案 代表理事の選任の件

第 2 号議案 専務理事の選任の件

第 3 号議案 重要な使用人の選任の件

第 4 号議案 諸規程の改正の件

第 5 号議案 資金分配団体の選定の件 (第 1 回随時公募)

5. 報 告

(1) 業務運営の状況全般について

6. 提出資料

資料第 1 ~ 資料第 5 (各号の議案に対応した議案説明資料)

資料第 5 別紙 (審査結果一覧)

7. 議事概要

17時00分開会、定款第42条により二宮理事長が議長となり、理事の現在数5名のうち5名が出席しており、本理事会は有効に成立していることを確認し、開会を宣した。

なお、議事録署名人は、定款第46条第2項により、二宮理事長と土岐、柳澤両監事となることを確認した。

(1) 議案審議

第1号議案 代表理事の選任の件

岡田業務執行理事より、資料第1に基づき、2022年度定時評議員会（6月28日開催）において、現在の5名の理事全員の再任については、指定活用団体の理事の選任が内閣総理大臣による認可事項であることを踏まえて、内閣総理大臣の認可日付をもって理事就任となることを前提に決議をいただいたこと、現任理事全員の再度の就任に係る内閣総理大臣の認可が得られること及び当該認可を受けた日付でその全員が理事に再度就任することを条件として、当該認可を受けた日をもって、代表理事である理事長については、引き続き二宮雅也理事がその任に就くこととするものの説明があり、異議なく可決承認された。

第2号議案 専務理事の選任の件

大川総務部長より、資料第2に基づき、2022年度定時評議員会（6月28日開催）において、現在の5名の理事全員の再任については、指定活用団体の理事の選任が内閣総理大臣による認可事項であることを踏まえて、内閣総理大臣の許認可日付をもって理事就任となることを前提に決議をいただいたこと、代表理事については、第1号議案において、二宮理事がその任に就くことについて決議をいただくことを前提に、岡田太造理事を専務理事として選定すること、報酬額については、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程第3条に基づき、2020年7月27日に開催した理事会で決議された報酬額を適用すること等の説明があった。

これに関する質疑は以下の通り

- (清水理事) 報酬額に変更がないとのことだが、再任の決議前に決められた額が決議上有効となるのか。
- (大川総務部長) 報酬額は本理事会で決議いただく趣旨でご説明した。

以上の質疑応答の後、決を採ったところ、第2号議案について、異議なく可決承認された。

第3号議案 重要な使用人の選任の件

岡田業務執行理事より、資料第3に基づき、2022年度は休眠預金等活用法の5年後の見直し時期に当たり、より機動力のある事業運営を必要とする状況にあることを踏まえ、事務局長以下の重要な使用人について、大川昌晴総務部長を事務局長に昇格させ総務部長を兼務すること、鈴木均事務局長については企業連携や案件形成・発掘等に特化した新設の『シニア・プロジェクト・コーディネーター』に就任すること、芥田真理子企画広報部リーダーを企画広報部長に昇格させリーダー職を兼務すること等の説明があった。

続いて二宮理事長より、事務局運営体制を整えることで制度の5年後見直しに向けて新たな体制をスタートさせること、今後の事業拡大や世代交代を考えなければならない段階に来ていること、女性の活躍を期待したいこと等の説明があった。

これに関する質疑は以下の通り

- (鵜尾理事) 鈴木事務局長のこれまでのご尽力に感謝申し上げる。企画広報部長がマネジメント層に入ることも非常に重要なことである。また、事業運営全般を適切に進捗させていくうえでも組織全体や外部との関係構築など全体を横断的にみる立場の人において、物事の判断をじっくりと考えるような時間的なゆとりもあることが大事ではないかとも思うので、事務局長と総務部長が兼務となるなどの状態については将来的には解消されていくような方向性も検討いただくべきであると思料。

(岡田業務執行理事) 人件費の予算の問題等があるが、問題意識を持っている点であるため、関係者の理解を得ながら兼務解消に取り組みたい。

- (清水理事) 『シニア・プロジェクト・コーディネーター』はもともと存在する役職か。

(岡田業務執行理事) 今までにない新しい役職であり、その新設についても本日の議事として提案を行っており、ご審議をいただきたい。

以上の質疑応答の後、決を採ったところ、第3号議案について、異議なく可決承認された。

第4号議案 諸規程の改正の件

岡田業務執行理事より、資料第4に基づき、第2号議案、第3号議案に関連し、理事会規則、給与規程、コンプライアンス規程、リスク管理規程、事務局規程、契約審査委員会設置要綱について読み替え規定の削除等一部改正を行うこと、電子帳簿保存法への対応に関連し、経理規程の一部改正を行うこと等の説明があり、審議の結果、異議なく可決承認された。

第5号議案 資金分配団体の選定の件（第1回随時公募）

まず、鵜尾理事より、本理事会における協議にあたって、利益相反の関係があるとみなされる可能性がある申請団体が含まれている等の理由から自身は本議案の協議には参加しない旨の申し出があった。

続いて、岡田業務執行理事より、資料第5に基づき、6月29日開催の審査会議において、随時公募に申請のあった6事業の審査が行われたこと、審査にあたっては、9名の審査委員において手元審査を実施いただくとともにオンラインによるヒアリングを実施したこと、審査会議として申請事業の整理をするための協議を行った結果、2事業を理事会へ推薦することとなったこと等の説明があった。

続いて大川総務部長より、56億円の予算枠の内、推薦された2事業合計で約6億3千万円規模の助成となること、すべての申請事業について審査委員からのコメント等を丁寧にフィードバックすること、今回見送りとなった4団体については、採択に至らなかった理由について丁寧にフィードバックを行い再申請へつながるよう十分な配慮を行うこと、本理事会における協議にあたって、利益相反の関係があるとみなされる可能性がある申請団体が含まれている等の理由から鵜尾理事は協議には参加しない扱いとなること等の説明があった。

これに関する質疑は以下の通り

- （茶野理事）推薦された事業について、既存で類似の事業を行っている場合には、これまでの事業の成果について説明がなされるか関連する資料等の提示があれば、理事会の協議の場での判断の参考になる。また、採択には至らない申請事業への審査委員コメントを見た上での印象であるが、事業コンセプトは評価に値するものの実行団体の事業実施体制に不安がある場合には、まずその体制を整えるための事業を行う等のキャパシティビルディングに力点を置くような事業プログラムなども事業の実現可能性や課題解決への実効性が高まるのではないかと。
- （岡田業務執行理事）審査委員と団体との面談では成果が論点となったものや過去に不採択であった事業も事業計画をブラッシュアップし、それが評価された申請案件もあった。一方で、実現可能性が議論された申請や分野に精通した審査委員の意見もあったため、丁寧にフィードバックしていきたい。
- （二宮理事長）審査委員の推薦数が多くても不採択になったケースについては、申請団体との対話を特に丁寧に行ってほしい。
- （大川総務部長）事前相談を受けた上での申請も含まれるため、議論となったポイントは審査委員にも確認しながら再申請にもつなげられるよう丁寧に対応したい。

以上の質疑応答の後、決を採ったところ、第5号議案について、異議なく可決承認された。

8. 報告事項

(1) 業務運営の状況全般について

大川総務部長より、今年度事業完了を迎える 2019 年度通常枠の団体を対象に制度の 5 年後見直しに向けた意見交換を実施していること、具体的には自己資金の扱いや出資・貸付、伴走支援や経費の内容等について話を伺っていること、論点は絞られてきているため現場の意見として集約し議論の参考にしていきたいこと等の説明があった。

これに関する質疑は以下の通り

- (鵜尾理事) 本制度は資金分配団体と実行団体、JANPIA の信頼に基づいたものであるため、資金分配団体と実行団体との対話は非常に重要である。それに加えて、これまで従事してきた JANPIA の職員の声もぜひ反映させるような形で、5 年後見直しの論議に活用いただけるようにするべきである。
(岡田業務執行理事) 5 年でここまで成長できたのは職員の努力もある。意見や考えを聞く機会を作りたい。
- (大川総務部長) ヒアリングでは、制度開始時を振り返りながら、業務改善プロジェクトチームでの論議なども含めて、資金分配団体の皆様との協働と連携の中で、ルールへの運用に柔軟性を持たせるなどの対応によって、よりよい形で事業を進められるようになったとの声もいただいている。今回いただいた意見をよい形で議論の場に持ち込んでいきたい。
- (柳澤監事) JANPIA のホームページでは活動状況は見えるが、これまでの成果が見えづらいように思える。
(大川総務部長) 視覚的に見てもらうために休眠預金活用事業サイトを立ち上げたり、事業報告書のサマリー版を作成する試みをしている。皆様のご意見をいただきながら改良に努めたい。
- (鵜尾理事) イギリスのビッグ・ソサエティ・キャピタルも 5 年経って最初の報告書が出されて初めて成果が見えたという。インパクトレポートを出して広報できるとよいであろう。
- (二宮理事長) ご意見感謝申し上げます。新体制の構築においてもご指摘の点が実施できるよう目指していきたい。

以上をもって、ZOOM を利用した第 48 回理事会の議事は、終始異状なく本日の議事をすべて終了したので、議長は議事にその協力を感謝し、17 時 57 分、閉会を宣言した。

上記の議事の経過およびその結果を確認するために、議事録署名人は、次に記名押印する。

2022年7月6日

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

議事録署名人（理事長） 二 宮 雅 也 ⑩

議事録署名人（監事） 土 岐 敦 司 ⑩

議事録署名人（監事） 柳 澤 義 一 ⑩

以 上